

1. 件名：福島第一原子力発電所における2月13日の地震に伴うタンクへの影響に係る面談

2. 日時：令和3年3月9日（火）14時00分～16時40分

3. 場所：原子力規制庁 18階会議室

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

澁谷調査官、大辻室長補佐、知見主任安全審査官、伊藤係長

市森係員、高木技術参与（テレビ会議システムによる出席）

福島第一原子力規制事務所

坂本原子力運転検査官（テレビ会議システムによる出席）

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

プロジェクトマネジメント室 担当1名（テレビ会議システムによる出席）

福島第一原子力発電所 担当10名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、2月26日、3月3日の面談に続いて、2月13日の地震に伴うタンクへの影響について、資料に基づき主に以下の説明があった。

- 2月13日の地震に伴う影響について、福島第一原子力発電所構内で運用している全タンクを対象に確認を行ってきている。漏えい確認は全タンクに対して終了、滑動確認は1～4号機用汚染水貯蔵タンク（中低濃度タンク）及び5・6号機滞留水用タンク（Fエリア）は終了し、その他のタンクの内残り約200基に対して実施中である。滑動が確認されたタンクにつき、連結管があるものは変位確認を実施中であり、Dエリアの12カ所でメーカー推奨変位値を超過していることを確認した。その他のエリアは変位値を確認中であるが、目視で有意な変位がないことは確認している。
- 今後、これまで確認された事象の水平展開を含めて詳細点検することを計画しており、点検項目を精査している。
- 当面の間はH8-Aタンクを5基連結した状態で運用せざるを得ないため、そのリスク低減対策として、水中ポンプ5台を当該タンクエリア堰内に設置すること等、地震による連結管破断の際には現在容量に空きのあるH8-Bタンクに移送できる設備及び体制を構築中である。
- タンク滑動量の評価については、4月中を目途に、Dエリアの特異点を整理するとともに解析検討を行う。

- 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認するとともに、

- 今後の詳細点検の内容及びスケジュールを具体的に示すこと
 - 天板点検口の蓋が地震後に無くなっていることが確認されたFエリアフランジタンクの構造について、他の種類のタンクとの相違点を含めて説明すること
 - 今後のスケジュールとして、Fエリアの漏えいしたタンクの補修及び当該エリアの復旧を含めて示すこと
 - タンク以外の構内機器に対する2月13日の地震に伴う影響を確認するための点検についても検討するとともに、その計画を示すこと
- 等を求めた。

6. その他

資料：

- 2 / 1 3の地震に伴うタンクへの影響について

以上